

## 研究ノート

## i-Seminar の可能性 :

インターネット利用ゼミ 1年間の記録

若本夏美

同志社女子大学・表象文化学部・英語英文学科・教授

## The bright side of i-Seminar:

An one-year long record of the internet-based seminar

WAKAMOTO Natsumi

Department of English, Faculty of Culture and Representation, Doshisha Women's College of Liberal Arts,  
Professor

## 1. はじめに

本研究ノートの目的は、1年間にわたりイギリス・オックスフォード大学と日本・同志社女子大学をインターネットでむすび、実施された英語英文学科4年次ゼミの記録を今後の分析論考のための資料としてまとめることにある。

## 1. i-Seminar の背景

## 2.1 発端

在外研究にはいくつかの目的があるものである。その第一は自分自身の研究にあることは間違いないが、同時にこれまでの教育実践を振り返り新たなフレームワークを模索することもその目的に含まれていると思う。在外研究を申請する際、多くの教員と同様、3年次生、4年次生のゼミを担当していた。英語英文学科では3年次ゼミと4年次ゼミは制度上連続しておらず、履修者は4年次ゼミを自由に選択することができる。ただ、実際には90%以上の学生がそのまま同じゼミに在籍し、2年間にわたりひとりの教員から持ち上がりで卒業研究を仕上げるまでの指導を受けているのが実態である<sup>1)</sup>。こ

のような状況化においては4年次ゼミは開講せず、それぞれの意向に沿って思い思いのゼミに登録をするよう勧めるのがオーソドックスな方法だろう。または可能であれば学内外から講師を招き同じメンバーでゼミを開講することもあろう。

しかし、私はこの2つ以外の方法を模索してみた。その理由として20名在籍の3年次ゼミメンバーが他ゼミに移籍する場合、少なからぬ影響がどのゼミにでも出てしまう懸念があったからである。具体的には20名と設定されている定員を超えてしまうゼミが現れ、既に在籍していた各ゼミの学生が押し出される可能性が考えられた<sup>2)</sup>。また学外から招聘する場合1年間限りの条件でゼミに出向してくれる寛大な大学教員を同一分野で探すのは極めて困難であると考えられた。また学生個人に目を向けると、4年次のゼミが開講されない可能性があると事前に通告がしてあったにせよ（多くの学生はbluffではないかとあまり信じていなかったようである）1年間共に学んできた学生集団から離れて異なったテーマで最終学年の研究をするのは酷であると考えた。

その可能性を信じていたものの、インターネットだけでゼミを開講することは危険であり、また同志社女子大学の教務制度的にも許容されるものではなかった。このジレンマを打ち破る方策を考える必要があった。そのために次のアプローチを想定してみた。

1. 1年間ゼミでいろいろなプロジェクトに取り組んできた実績を基礎に活動すれば学生を中心によいゼミが出来る可能性はある
2. ゼミ学生にはインターネット利用を試みるが何も保証しない
3. ゼミの公式の担当者を別に学科内から立てる
4. リスクがあるのは事実（私がリアルタイムでは全く参加できない可能性はある）
5. 自分で判断してゼミに残るか他のゼミに移籍するか、学生に自由に考えさせる

実際のところ、イギリス、特にオックスフォード大学におけるインターネット環境が詳細には分からず（Wifiが利用可能であることは事前に分かっていた）、保証すべきものがなかったのが実情である。

2017年11月の次年度のゼミ登録において、結果的に17名のゼミメンバーがこのゼミに残る選択をし（残り3名はそれぞれ別のゼミに移籍した）、早急に次年度の計画を詳細に立てる必要に迫られた。

## 2.2 事前準備

まず代行して頂く教員であるが、これは分野的にも2名に絞られた。ご本人も同様にゼミを教えておられる中での純増となるこのゼミ担当であったが、北尾キャスリーン教授に依頼すると幸いにも快諾していただくことができた。残りの課題は4年次ゼミですべきことをなるべく残りの4ヶ月間で実施することと同時にオックスフォードからの接続に必要な備品を揃えることであった。

すでに春学期プロジェクト（小学校英語プロジェクト：STEP）、秋学期プロジェクト（中学校英語プロジェクト：JTEC）、スポーツフェスティバルやEVEへの参加によってゼミ集団は自律的に行動するスキルを身につけてきたが、2月に例年行っている3年次ゼミプロジェクトの発表会（ALPS）をその延長線上に位置づけ、教師のサポートがなくとも自分達で、計画を立て、行動し、内省する中で問題点を明確にし、サポートの必要な部分に光が当てられるような準備態勢を整えた。具体的にはALPSのリーダー4名を中心に計画立案をし、その計画実施のため残りの16名を4グループに分けて、それぞれの準備に当たるようにした。LINEは連絡・報告・相談・意思決定に重要なツールとなり、各種の情報を整理して共有する方法を確立することができた（項目別のノート・アルバム、意思決定手段としての投票）。11回目となるALPSの発表会は同時に4年次の卒業研究発表会を想定し全て英語での発表を試みた。また、発表会終了後には、4年次第1回ゼミと称して、担当者の北尾教授にも参加して頂き、各自の自己紹介に加えて、このゼミが採用してきた独自のゼミの進め方を全員で確認することができた。

また、4年次ゼミの先取りについてはALPS終了後の2月中旬に同志社びわこリトリートセンターで春合宿と称し、一泊二日の学習会を開催することとした。例年、その時期が早くなってきている就職活動とのオーバーラップも懸念されたが17名全員+他のゼミに移籍する3名も含め3年次ゼミ20名全員参加のもと充実した合宿を実施する事ができた。懇親会（卓球大会やコンパ）も実施したが、実質9時間（通常のゼミの6回分）の学習時間を確保し、特に卒業研究で重要となる研究方法（具体的には質問紙の作成方法：構成概念の決定、質問項目の選定、内容妥当性の検証など）を中心に全員で1つの質問紙を作成することができた。そのため合宿には、各自がラップトップ・コンピュータを持参し、モバイルプリンタも準備し

てその場ですべての作業ができるようにした。

大学院生の加藤さんにはTA (Teaching Assistant) として秋学期から参加して頂いていたが、この合宿にも参加して頂き、オックスフォード大学と同志社女子大学をインターネットでつなぐシミュレーションに協力をしてもらった。具体的には次の方法で予行を行った。

1. iPad mini (同志社女子大学側) = iPhone X (オックスフォード大学側)
2. 同志社女子大学側: iPad mini (Wifi 接続) を三脚に固定し (固定用のアダプタを準備)、HDMI を通してプロジェクタにその画面を投影
3. オックスフォード大学側 (想定): iPhone X (Wifi 接続) を Facetime (アップルソフトウェア) 及び LINE ビデオ (ソフトウェア) によって接続

この模擬練習では、同じ Wifi ネットワーク内であり距離も近かったこともあるが、かなり鮮明に音声も映像も聞き取ることができ、4月からのゼミに明るい見通しを持つことが出来た。

### 2.3 定義

中心的概念である i-Seminar を定義することは難しい。従って、この「i」の意味のみについて言及したい。当初は単に Internet-Seminar (インターネットゼミ) の略号として用いていたが、ゼミが進むにつれ、Interactive-Seminar (相互交流のあるゼミ) であるとか Initiative-Seminar (主体的なゼミ)、Independent-Seminar (独立したゼミ)、Innovative-Seminar (革新的なゼミ)、Individual-Seminar (個別化されたゼミ)、Interesting-Seminar (興味深いゼミ) などいろいろとイメージが広がってきた。ただそれらは目的ではなく、ある意味ではインターネットを用いたゼミの効果である部分が多分にあるため、本稿では、i-Seminar は Internet-Seminar (インターネット利用のゼミ) を指すものとする。

### 2.4 経緯

オックスフォード大学に到着して (2018年3月28日)、すぐに i-Seminar の準備に取りかかった。4回生ゼミの開講まで2週間足らず。ゼミシラバスは既に春合宿で配布し説明も済ませていた。春学期に講読する英語論文の綴り、1年前のゼミ学生の書いた卒業論文 (全17編) は事務室に印刷を依頼し、製本 (1講読論文綴りのみ) はゼミ学生有志の協力で完成し研究室前で配布を開始していた。

最も重要な部分はインターネット回線の確保であった。これについては幸運なことに、オックスフォード大学への招聘者で共同研究を1年間にわたり行うことになった同大学の Heath Rose 博士のご厚意で研究室をゼミのある月曜日終日利用させて頂けることとなった<sup>3)</sup>。また Wifi と比較して有線 (Wired) の方が一般的にスピードが速いことが多いため、Rose 博士にはご自身のコンピュータ (iMac) に私のアカウントまで設定し利用環境を整えて頂いた。一方、オックスフォード大学のインターネットは基本的に eduroam (エデュローム) を利用することになっているが、転送スピードは日本やイギリスでの商用ネットワークほど速くないことは後に問題となる (図書館での Bodleian Library 回線も同様のスピードである)。

## 3. i-Seminar の記録

次に、計30回を数える春秋学期のゼミの簡略な記録を示す。ゼミ記録はブログ形式で「はてなダイアリー」に写真付きで順次一般公開してきた。もともとこれはゼミ記録やゼミメンバーの考えたことを交流するために2015年4月に開設した「はてなダイアリー」(※はてな提供) を利用したものである<sup>4)</sup>。

(注: 以下、日本は日、イギリスは英、同志社女子大学はDW、オックスフォード大学はOXと略)

### 3.1 2018年度、春学期

春学期は14回のセッション (1回は台風の

ため全学休講)と学科行事である第16回ポスターセッションからゼミは構成された。

No	日付	セッション内容と記録からの抜粋	会場	機材設定・変更点
1	(2018) 4/9 15:00-18:40 (日) 07:00-10:40 (英)	トピック: Vocabulary learning strategies  これまでできるとは思っていた但实际上には本 当に実行したことはなかったもの。そうです、同 志社女子大学(京都)とオックスフォード(イギ リス)をインターネットでつないでゼミをする というものです。…画像が途切れることもなく音声 もiPadの近くのもの聞こえるが、iPadから離 れると判別が難しい。またiPhoneの画面は小さ く、横にしても同女側の画面は小さく、ゼミメン バーを判別しづらい状況。ただ私の声と同女側に 綺麗に聞こえているらしいのは good news。	DW: S506 教室  OX: Wadham College Dormitory	使用ソフト: Facetime, LINE ビデオ  DW: iPad mini (+ 三脚、ア ダプタで充電しながら HDMI 接続で教室プロジェ クタに接続=小スクリーンに オックスフォードの画面を映 す)、ゼミの後半、iPadは充 電しながらでもバッテリーの 残量が急激に減少→TAのK さんのMacbook Airに切り 替え  OX: MacPro, iPhone X
2	4/16 15:00-18:35 (日) 07:00-10:35 (英)	トピック: Silent classroom in Japan  ただ日本で出来てこちらで出来ていないのが Facetimeでの通信(本日のセッションをしながら、 iPadは不安定でダメかもしれない、もう新しい マックを日本で買おうと思いました)。新しい マックならそのマック用のFacetimeアカウント を作って(そのためには新しいAppleアカウント を作らないといけなかもしれませんが)、イギ リスから発信→同志社女子大学で受信とするう まくいくかもしれません…	DW: S506 教室  OX: Rose 研究室	(以下、変更点、特記事項の み)  使用ソフトとしてLINE チャットをフリーズした際の 連絡用に利用  DW: Macbook Air (TAのK さん所有)  OX: iMac (Rose先生所有、 有線接続)
3	4/23 15:00-18:30 頃 (日) 07:00-10:30 頃 (英)	トピック: Self-efficacy and English learning  事前に発表スライド(パワーポイントファイル) をDropboxの授業フォルダにアップロードして おいてもらい私はそのスライドをMacBookPro でみながらゼミに参加しました。正直なところ日 本出発前にここまで出来るとは思っていません でした。しかもこの日は北尾先生が忌引きでTAの Kさんがいるものの実質教員はゼロの状態ですが、 若ゼミメンバーはモチベーションを切らすことな く前半は100%英語のゼミが実行できています。 もうこれで満足です、といたいところですが、 人間目標が達成できると更に上!を目指したくな るもの。	DW: S506 教室  OX: Rose 研究室	Facetimeが不安定なため LINEビデオを主として利用

No	日付	セッション内容と記録からの抜粋	会場	機材設定・変更点
4	5/7 15:00-18:30 頃 (日) 07:00-10:30 頃 (英)	トピック：Immigrants' life and English  また今日の収穫は、Pages (Word のマック版) をインターネットで共有してそれを黒板のように表示することができたこと。これはすごい。時間差はありますが、iPad 上で Apple Pencil で書いたもの (Oxford) をそのまま Mac 上の Pages で (同志社女子大学) 表示してプロジェクトで表示できるもの。言い方は極端ですが、私がオックスフォードから同志社女子大学の S506 教室のホワイトボードに直接、字を書いているようなことが可能となっています。	DW: S506 教室  OX: Rose 研究室	Facetime を主として利用しようとするが不安定、LINE ビデオを併用  Pages (書類の同期) をホワイトボード代わりに利用 (OX → DW への一方通行)  DW: Macbook (この回から新規購入機種導入)、教室配備の AppleTV にてプロジェクトへ無線投影  OX: iPad + Apple Pen 導入 (いずれも Edurome Wifi 接続)
5	5/14 15:00-18:30 頃 (日) 07:00-10:30 頃 (英)	トピック：Motivation  本日より MacBook の三脚台が登場し、マックを三脚につけて、丁度カメラが三脚に乗っているような形で中継をしていただきました (コンピュータが三脚に乗っているのは変な感じもするのですが)。しかしこの効果は絶大でした。前回まで話をしている人の顔が見えないという事を言っていました。本日は話をしている人の顔を見て英語を聞くことが出来ました (機転を利かせてマックを声がする方へ回して頂いたからです)。	DW: S506 教室  OX: 自室 (Summer Town)	LINE チャットをフリーズした際の連絡用に頻用  DW: Macbook (+三脚+キャスター) + 教室配備の AppleTV にてプロジェクトへ無線投影 (以後、この形) OX: Macbook Pro, iPad + Apple Pen (いずれも SKY Wifi 接続) (以後、この形)
6	5/21 15:00-19:00 頃 (日) 07:00-11:00 頃 (英)	トピック：Learning contexts and time needed  Facetime でスタートしたのですが最初から画像がモザイク状態で判別が厳しい状況。互いの音声は途切れ、途中から LINE に切り替えたのですが LINE は通信自体ができない状況に陥りました。そこで LINE の (Facetime だったかも) 音声のみに切り替えてインターネット電話状態でゼミを続行。…ゼミは随分整備されプレゼンターが事前にパワーポイントスライドを PDF にして Dropbox にアップしてくれているので画像がなくてもプレゼンテーションはフォローすることができます。ただこれまで何回か書いているように画面なしで音声だけ、しかも複数の [音声]、となるとさすがに厳しい状況ではありました。	DW: S506 教室  OX: 自室 (Summer Town)	Facetime → LINE ビデオ → Facetime (又は LINE) 音声のみ
7	5/28 15:00-18:30 頃 (日) 07:00-10:30 頃 (英)	トピック：Critical Period and teaching methods  本日はインターネットの接続状況も良好でした。三脚付きの疑似 coach も Convener (MC の事ですが呼び方をこちらにします) が適宜話をしているひとの方に向けてくれるので理解不足に陥ることもなくこれまでで一番スムーズにゼミが進みました (ゼミメンバーのおかげです)。…現在、ゼミは純正館 S506 教室で行っていますが、ラーニングcommons でしてみたらとかいろいろ可能性を考えたりします。春学期の半分でゼミのペースが出来上がったように思いますので、今後はその発展の方法を考えてみたいと思います。	DW: S506 教室  OX: 自室 (Summer Town)	(変更点なし: Facetime、LINE ビデオ・チャット、Pages)

No	日付	セッション内容と記録からの抜粋	会場	機材設定・変更点
8	6/4 15:00–18:30 頃 (日) 07:00–10:30 頃 (英)	トピック：Personality and learner strategies  教育実習がはじまり 17 名のゼミは 10 名でのセッションとなりました。…インターネット利用のゼミに日本のゼミメンバーもオックスフォードの私もいい意味で慣れてきたように思います。意志あるところ道ありと言いますが、当たり前のようにインターネットを利用したゼミが普通にできているところにここまでの 8 回のゼミの積み上げと同時に、この普通を支えてくれている縁の下の力持ちのゼミメンバーやゼミを温かくサポートしてくださっている K 先生に感謝の気持ちで一杯です。…コンピュータに向かって話すことに最初は違和感を感じていましたが、今では普通に思います。テレビで中継をみると特に外国からの中継で私と同様の形でコンピュータやスマートフォンで話している姿を目にすると共感すら覚えるようになりました。	DW: S506 教室  OX: 自室 (Summer Town)	(変更点なし: Facetime、LINE ビデオ・チャット、Pages)
9	6/11 15:00–18:30 頃 (日) 07:00–10:30 頃 (英)	トピック：A step to graduation theses (1)  先週で春の論文を読み終わったので本日は北尾先生に “How to write a thesis comfortably and effectively” というトピックについて講義をしていただきその内容について議論をするという形式を取りました。  今回は新たな実験として K 先生の講義中に質問やコメントを LINE のゼミグループに投稿してみました。…実際には私が投稿をしてそれを K 先生が話しながら器用に見ているという形でしたが授業の一つのオプションとしてうまく機能したように思います。	DW: S506 教室  OX: 自室 (Summer Town)	+ LINE のゼミグループをリアルタイムチャットとして利用 (北尾先生に 15 分程度の講義をしてもらい、聞きながら分からない部分や質問やコメントを投稿)
10	6/18	台風のため大学の全ての授業休講		(自主学習)
11	6/25 15:00–18:40 (日) 07:00–10:40 (英)	トピック：A step to graduation theses (2)  改善点はハードではなくむしろソフトの問題。メンバーから指摘がありましたが …インターネットの接続状況が良くない時にゼミがダレてしまうというもの。これはまだゼミが完全に学生主体となっていない証拠かもしれません。自分達の貴重な時間であり、大切なセッションと思えば緊張感も生まれてくるもの。この点は日本にいる若ゼミメンバーに改善を託したいところです	DW: S506 教室  OX: 自室 (Summer Town)	(変更点なし: Facetime、LINE ビデオ・チャット、Pages)
12	7/2 15:00–19:00 (日) 07:00–11:40 (英)	トピック：Poster Presentation Rehearsals  …各自のプレゼンテーションを各々のモバイルホンで 1 分間だけ動画撮影し LINE のグループチャットにアップロードすることにしました。…今回のように、初めからインターネットをベースにしていると、他のメディアを使うことへの敷居が低くなることに気づきます。Face-to-face で普通に (?) ゼミをしていると他のメディアを特に授業中に使うことは思いつかないものです。これは今回の発見です。	DW: ラーニングコモンズ (楽真館) 2F、ワークショップスペース、グループスタディールーム  OX: 自室 (Summer Town)	(変更点なし: Facetime、LINE ビデオ・チャット、Pages)

No	日付	セッション内容と記録からの抜粋	会場	機材設定・変更点
13	7/9 15:00-19:00 (日) 07:00-11:40 (英)	トピック：A step to graduation theses (3)  回線・接続状況やコンピュータの状態に左右されるのがこのインターネットゼミのアキレス腱。13回のゼミで本日が同志社女子大学＝オックスフォードのコミュニケーション状態が最も良くありませんでした。前半（4コマ目）は、私（オックスフォード側）のコンピュータで見る限り、ゼミの映像・会話とも問題はなかったのですが、同志社女子大学側で映像は映っているものの声が途切れ途切れで聞き取りが不可能な状態でした。…TV中継でよく音声は途切れましたが、映像が固まりました、といったことが時々見受けられますが、まさにそのような状態です。	DW: S506 教室  OX: 自室 (Summer Town)	(変更点なし: Facetime、LINE ビデオ・チャット、Pages)
14	7/16 15:00-16:30 (日) 07:00-8:30 (英)	トピック：A step to graduation theses (4)  同志社女子大学側の Macbook は Apple TV を通じて教室のスピーカーから私の声が出る設定にしているのですが、時々私の声が反響してしまい私が話をしているときに1-2秒遅れで自分の声が聞こえてしまうことがあります。自分の声が聞こえると話しにくいものですね。ただ、14回目（実際には13回）になるとあまり細かいことを気にしなくなるのも面白いところです。最初の頃はうまくつながらなかった、などということに正直、落ち込むこともあったのですが、最近「うまくつながらないことを前提」として考えられるようになってきました。	DW: S506 教室  OX: 自室 (Summer Town)	(変更点なし: Facetime、LINE ビデオ・チャット、Pages)
*	7/21 9:30-15:30 (日) 01:30-07:30 (英)	トピック：第16回 英語英文学科ポスターセッション  各自の発表はデジタルビデオカメラ（SDカードを購入しました！）にフル録画し（後の作業を勘案し、各自の発表の間にはポーズをいれる）後に Youtube のグループシェアでイギリスからも閲覧できるようにする（この日は Kitao 先生も校務の会議のため参加できなかったためこのビデオはとても役に立つと思います）、また各自の発表の最初の1分間をスマートフォンで録画し、ゼミ LINE にすぐに共有しました。	DW: 純正館各教室  OX: 自室 (Summer Town)	LINE ビデオ・チャット
15	7/23 15:00-18:30 頃 (日) 07:00-10:30 頃 (英)	トピック：Consolidation  同志社女子大学側の Wifi 状況がよくなかったようで（このどこが悪い？は場所の特定が難しいです）、計4回止まってしまいましたが（2回は私が話している最中でした）、ゼミメンバーの早急な対応でそれほどフラストレーションを感じることなく進めることができました。ポスターセッションと春学期のまとめを行ったのですが、しめくりに相応しい充実したセッションになったと思います。	DW: S506 教室  OX: 自室 (Summer Town)	(変更点なし: Facetime、LINE ビデオ・チャット、Pages)

### 3.2 2018年度、秋学期

秋学期は15回のセッション、冬合宿と学科

行事である第16回卒業研究発表会からゼミは構成された。

No	日付	セッション内容と記録からの抜粋	会場	機材設定・変更点
16	9/24 15:00-18:30 (日) 07:00-10:30 (英)	トピック：Autumn term schedule  秋学期のi-Seminarのスタートに合わせて、新しいデバイスとしてAir Pods (Apple) が加わりました。当初はBluetooth Speakerを購入しようかと考えていたのですが、いわゆる「ワイヤレス・イヤホン」を導入しました。…同志社女子大学側ではそれほど違いが分からなかったのかもしれませんが、オックスフォード側では、Air Podsを使うことによってまず、音が以前よりも(MacPro内蔵のスピーカー、iPhoneに付属の有線のイヤホンと比較して)クリアに聞こえました。そして、Air Pods内蔵マイクを通して話ができるため、マイクを気にする事なく(以前はコンピュータのマイクに向かって話す感じがありました)対人コミュニケーションの姿勢で話が出来た点は大きな違いでした。	DW: S506 教室  OX: 自室 (Summer Town)	DW: Macbook (+ 三脚 + キヤスター) + 教室 配備のAppleTVにてプロジェクトへ無線投影 (以後、この形)  OX: MacbookPro, iPad + Apple Pen (いずれもSKY Wifi 接続) + Air pods (以後、この形)  LINE チャットをフリーズした際の連絡用に頻用
17	10/1 15:00-18:30 頃 (日) 07:00-10:30 頃 (英)	トピック：Midterm report 1 (a)  台風の影響でしょうか、月初めだからでしょうか(10/1)、コンピュータ自体はWifiに繋がっているのですが、その先、FacetimeにもLINEにもつながりません。ゼミメンバーとかがろうじてLINEのテキストメッセージは交換できるのですが、何度試してみても90分間、ビデオ通話は一切つながりませんでした。ゼミメンバーがよく動いてくれましたが、本日はTAのK先生もお休みだったため、その分大変でした(不思議なものでこのようなトラブルはそのような状況でおきるものですね)。	DW: S506 教室  OX: 自室 (Summer Town)	DW: Macbookの充電用に延長コード導入
18	10/8 15:00-18:30 頃 (日) 07:00-10:30 頃 (英)	トピック：Midterm report 1 (b)  i-Seminarらしく、パワーポイント(必ずしもマストではないけれど)でのプレゼンの後、オックスフォード側から私が質問→応答、あと1名くらいの質問ですぐに時間切れで「もう少し質問したい」「もう少し話したい」という気持ちがあるのは事実です。  ところで、本日のゼミ(後半の議論)で問題になったのが、英語でプレゼンテーションをすると、内容の理解が十分できないので、有益なコメントを書きにくいという意見がでてきました。もったもただと思います。一方で、発表者がドラフトを棒読みしているので(本人ですら)分かりにくいという意見も。このような議論ができること自体が貴重だと思います。	DW: S506 教室  OX: 自室 (Summer Town)	(変更点なし)

No	日付	セッション内容と記録からの抜粋	会場	機材設定・変更点
19	10/15 15:00-18:30 頃 (日) 07:00-10:30 頃 (英)	トピック：Midterm report 2 (a)  本日はインターネットの接続状況もそれほど悪くありませんでした。ただ最近の傾向として、オックスフォード側は問題ないのですが、同志社女子大学側で約30分くらいで音声は通じていても画面がフリーズする状況が頻発しています。本日は、幸い、笑顔の状況でフリーズしていたので、プレゼンテーションの途中と言うこともありましたが、そのままにして音声のみで続行しました（これが下を向いていたりの画面なら即、再接続をお願いしていたかもしれません）。この問題がやっかいなのは、音声OK画面フリーズの状況が気づかれにくいということです。	DW: S506 教室  OX: 自室 (Summer Town)	(変更点なし)
20	10/22 15:00-16:30 (日) 07:00-8:30 (英)	トピック：Graduation album photos  ラーニングコモンズ教室内での撮影。ゼミメンバーの配慮が行き届いていて、私もインターネット経由で教室内集合写真に参加させて頂きました。…屋上にも携帯経由で連れて行って頂き、ゼミの集合写真風景をLINEビデオ経由で中継して頂きました。イギリスに行くことになってからこのゼミ写真が気がかりの種でまさか参加できるとは思っていなかったのがインターネットの威力をあらためて認識したよりも、私も入れてあげようといろいろと苦心してくれたゼミメンバーの温かい気持ちに感動しました。	DW: ラーニングコモンズ2F、ワークショップスペース、楽真館屋上、テラス  OX: 自室 (Summer Town)	(変更点なし)
21	10/29 15:00-18:30 頃 (日) 07:00-10:30 頃 (英)	トピック：Midterm report 2 (b)  本日は15分くらい前に接続を完了して頂き（ありがとうございます）準備万端だったのですが、ゼミが始まっていざというところで、Facetimeがフリーズ。その後何度か同じ状況（接続→しばらくするとフリーズ→接続）が続いたため、LINEビデオに切り替えてのゼミとなりました。LINEビデオでもBluetoothイヤホン（AirPods）も使えることもわかり、その後も何度かフリーズしましたが、LINEの場合にはすべてがフリーズするのではなく、映像が消えて音声のみになる→接続を維持したまま映像を復活することができることが分かりました（今日だけのことかもしれません）。	DW: S506 教室  OX: 自室 (Summer Town)	(変更点なし)
22	11/5 15:00-18:30 頃 (日) 06:00-9:30 頃 (英)	トピック：Preparation for winter overnight program  本日の後半のゼミで試してみましたが、アダプタを付けてもスルーでUSB-Cを通して充電できることがわかりました。また従来から研究室配備のBoseスピーカーにBluetooth経由で接続も確認。…Boseスピーカーの特徴は「時差」です。Apple TVやHDMIと比較して転送に1-2秒の時間がかかるようで、自分が話した音声を一緒に聞く感じがします。…多少の問題はありそうですが、何とかびわこリトリートセンターでもi-Seminar冬合宿が実施できそうな目処は立ちました。	DW: S506 教室  OX: 自室 (Summer Town)	DW: Type-C USBのアダプタ  OX: 夏時間（Daylight saving time）終了

No	日付	セッション内容と記録からの抜粋	会場	機材設定・変更点
*	11/10 11:00-18:30 (日) 02:00-9:30 (英)  11/11 9:00-14:30 (日) 00:00-5:30 (英)	トピック：Winter overnight program  Wifi 接続は素晴らしく向上して大学で接続するよりも安定していました。2日間、約9時間のセッションで止まったのは2-3回のみという優れたものでした。音声は無事、Bose スピーカーから出力できたのですが…大学の教室で行っているApple TVと比較して1秒程度のずれが生じることです。…手短かにいうと、自分で話したことを聞きながら次の話をする、自分が話したことを1-2秒後に聞きながら話し続けるという奇妙な状況がうまれて…	DW: 同志社びわこリトリートセンター  OX: 自室 (Summer Town)	DW: Macbook (+ 三脚 + キヤスター) + Type-C USB のアダプタ + Bose スピーカー (プロジェクタにはうまく接続できず) (同志社びわこリトリートセンターの Wifi 接続)  OX: 変更なし
23	11/12 15:00-18:30 頃 (日) 06:00-9:30 頃 (英)	トピック：Open Seminar  事実上3日連続のゼミとなりましたが(土・日=冬合宿)、ゼミメンバーには(インターネットで見える限り)疲れは微塵もみられません。若いと言うことはまずそれだけで素晴らしいことです。ゼミメンバーの張り切った様子が少し疲れ気味の私を勇気づけてくれます。本日のゼミもリトリートセンターのような音声の反響が残っていました。これまでは Bluetooth Speaker (BOSE) に接続したためと思っていたのですが、Facetime の問題かもしれません。オックスフォード側のマイクとスピーカーが適切に切り替わらず、私が話している間も同志社女子大学側の音声が聞こえてしまうエラーなのかもしれません。	DW: S506 教室  OX: 自室 (Summer Town)	(変更点なし)
24	11/19 15:00-18:30 頃 (日) 06:00-9:30 頃 (英)	トピック：Deciding thesis titles  本日のインターネット接続は4回止まってしまいました。先週までの音のハウリングのような現象は一切見られませんでした。Facetime も LINE ビデオとも。すると格段に話しやすいものです。微妙な音の作用ですが、コミュニケーションというよりもむしろ思考としての言語使用に大きな影響があるように思いました。  今年初めて三者面談として本人、北尾先生、私で各自が提案した卒論について教室内で公開で議論をしほぼ最終決定をしました…昨年までは物理的にもう一人の先生が教室にいなかったためこのような三者面談風を考えもしなかったのですが、i-Seminar をしている中でこのような企画ができて良かったと思います。	DW: S506 教室  OX: 自室 (Summer Town)	(変更点なし)

No	日付	セッション内容と記録からの抜粋	会場	機材設定・変更点
25	11/26 15:00-18:30 頃 (日) 06:00-9:30 頃 (英)	トピック：References  現在、イギリスは冬へまっしぐら、12月22日に向けて日没時間もどんどん早まるばかりです。日没はついに午後4時を切りはじめました。朝は7時半くらいにならないと明るくなりません。ゼミの始まる日本時間午後3時はオックスフォードでは午前6時。ゼミの日は朝5時起きとなりませんが当然真夜中のようです。夕方午後6時くらいで日本の午後10時くらいの暗さです。この日は何度か止まってしまいましたが、Facetimeが順調で、音が二重に聞こえる現象も起きずインターネット状況は順調でした。	DW: S506 教室  OX: 自室 (Summer Town)	(変更点なし)
26	12/3 15:00-18:30 頃 (日) 06:00-9:30 頃 (英)	トピック：Apollo 13  2時間近くの長い映画ですので、例年も全部を見ることはできないのですが、ゼミメンバーの表情を観ながら適当にスキップしてみせることができていました。ただ、今回はそうは行きません。このi-Seminarの極意は「事前準備」に尽きます。教室の変更がないか。ハンドアウトの準備、授業の進行表(インターネットが止まってしまうことがあるので司会者をはじめ全員に授業の流れを理解しておいてもらう必要がある)の共有など。今回の映画についてもどの部分を観るのか、まずイギリス側でAmazon UKでビデオをレンタルし、観ながらどの部分をゼミで使うか、進行時間をメモしながら決めていく→エクセルファイルに転記しゼミメンバーに共有…	DW: S506 教室  OX: 自室 (Summer Town)	DW: (S506 設 置 ) DVD player
27	12/10 15:00-18:30 頃 (日) 06:00-9:30 頃 (英)	トピック：Rationales for writing a thesis  この最終盤のゼミは各自がPCを持参してラーニングコモンズのワークショップスペースで行っています。これまでは秋学期は作業を重視して情報処理教室でのゼミだったのですが、議論を重視すると普通教室の方がいろいろな話をするのに便利です。最近ではラップトップコンピュータも小さくなりましたし、大学生が授業に持参するのはある意味では当たり前のことかもしれません。これもまた今年の発見のひとつです。	DW: ラーニングコモンズ 2F、ワークショップスペース  OX: 自室 (Summer Town)	(変更点なし)
28	12/17 15:00-18:30 頃 (日) 06:00-9:30 頃 (英)	トピック：Stay alert  毎年のことですが、いよいよ卒論提出に入ります。アポロ13号でいえばいよいよ大気圏再突入というシーンです。何度も経験していますが、期待と緊張が入り交じる瞬間です。ゼミの冒頭は若ゼミらしく、クリスマスパーティーを開催してくれました。硬軟取り混ぜるとうまくいくことが多いです。  ラーニングコモンズのワークショップスペースでのゼミとなりましたが、インターネットの状態もそれほど悪くなく、割と順調にゼミを進めることができました。	DW: ラーニングコモンズ 2F、ワークショップスペース  OX: 自室 (Summer Town)	(卒論提出期間：12/19-21)

No	日付	セッション内容と記録からの抜粋	会場	機材設定・変更点
29	(2019) 1/7 15:00-18:30 頃 (日) 06:00-9:30 頃 (英)	トピック：Final Presentation Rehearsals  年明けの1回目のゼミは卒業研究発表会リハーサルです。…不思議なことですが、休み明けとかにはトラブルが多いものです。今回のトラブルはアップルIDの不調というものでした。…日本側のMacのアップルIDが上手く入力できなかったようで…このアップルIDは、Facetimeを利用するためにどうしても必要です。もうゼミがはじまって5-6分経ってしまいましたので、一旦断念してLINEビデオでの中継に切り替えることに。すると、今度はネットワーク不調で1分に1回途切れるような状況に。…でも、感じることはここまで積み上げてきたセッションを通してゼミメンバーは自分達の力で次々と臨機応変に判断して次々と進める力を身につけているということですよ	DW: ラーニングコモンズ(楽真館) 2F、ワークショップスペース、グループスタディールーム  OX: 自室 (Summer Town)	(変更点なし)
*	1/12 9:30-16:30 (日) 0:30-07:30 (英)	トピック：第16回英語英文学科卒業研究発表会  発表用PCが不足しているということでゼミで使用しているMacbookを発表用に提供。するとOXとの連絡ができないことに。そこでゼミメンバーの提案で4名ずつくらい各自のスマートフォンとOXのスマートフォンをつなぐ事に。更に、今回は普通教室での発表ということでWifiを利用することができないためソフトバンクのモバイルルーターを一泊二日でレンタルすることに。どの教室でもWifiがつかうことが重要であることを再認識…	DW: 純正館各教室  OX: 自室 (Summer Town)	LINEビデオ・チャット  DW: ゼミ学生のスマートフォン + SoftBank Pocket Wi-Fi 601HW (Macbookでもファイル共有に接続しようとしたが機種の問題か接続不可)  OX: iPhone X (SKY Wifi 接続)
30	1/21 15:00-20:30 頃 (日) 06:00-11:30 頃 (英)	トピック：The final session  春から取り組んできたi-Seminarもいよいよ本日、ファイナルセッションを迎えました。前半は従来通りのProcedureに沿ったセッションが進められました。本日は後半が追いコン(追い出しコンパ)となるため、会場が前半から楽真館R206教室に変更になりました。  …事前チェックの重要性を理解していたので、私も奮起して早起きして(早朝、3:30)接続設定と一緒に確認しました。やはりこのような大きなイベントの際には(事前チェックは)大切ですね。早起きして良かったと思いました。MacとPocket Wi-Fiの接続、MacとBose SpeakerとBluetooth接続、Macと教室内マイク・スピーカーのチェック…、Macの位置など手際よくチェックされていきました。幸い、MacとPocket Wi-Fiの相性も良く画面もクリアに映っていました(今回は一貫してFacetime利用)  オックスフォードからFacetimeによる中継で私も参加させて頂いたのですが、ゼミ活動の集大成として相応しいすがすがしい会となったと、誇りに思える素晴らしい追いコンとなりました。	DW: R206 (楽真館)  OX: 自室 (Summer Town)	(変更点なし)  Macbook (+三脚 + キャスター) + Type-C USBのアダプタ + R206教室のプロジェクタにHDMI接続 + Boseスピーカー + + SoftBank Pocket Wi-Fi 601HW  OX: Macbook Pro (SKY Wifi 接続) + Air pods

#### 4. おわりに

本研究ノートは、全 30（実際は 29）回に加えて春・秋の英語英文学科行事（ポスターセッション、卒業研究発表会）、冬合宿の記録をまとめたものである。研究ノートはブログの一部を抜粋するという形式を採用したが、今後、この研究ノートを足がかりに原本のブログも詳細に i-Seminar について研究を進めていきたい。21 世紀になりインターネットが格段に進化し、ICT を利用した反転授業（e.g., Wang & Qi, 2018）やブレンド型授業（e.g., Genís Pedra & Martín de Lama, 2013）が議論されているが、1 年間という長期にわたる授業記録を目にすることは希であろう。特に、(a) インターネットを利用することによって何が可能となるのか、(b) インターネットを利用することの問題点は何か、(c) 特に、コミュニケーションの方法（教師⇔学生、学生⇔学生）にどのような影響があるのか、量的・質的研究方法の手法に則りすすめていく計画である。量的データとしてはすでに i-Seminar 参加者 17 名を対象に質問紙調査を実施済みである。また、質的研究方法としては、NVivo (Version 12) などを利用することにより議論を進めたいと思う。

#### 謝辞

この 1 年間、対外的には北尾ゼミ（応用言語学）としてゼミを担当して頂いた S. Kathleen Kitao 教授、1 年半（3 年次秋学期より）TA としてゼミをサポートして頂いた文学研究科英語英文学専攻大学院生 2 年次の加藤滯さん、また、機材の受け渡しなど様々な面でご支援頂いた英語英文学科研究事務室に感謝申し上げます。そして何よりも、この 2 年間のゼミ活動を通し、自律的学習集団としてたくましく成長した i-Seminar（若本ゼミ 18 期生）17 名から多くの事を学ばさせて頂きました。青春の情熱を賭して参加して頂いたことに感謝します。

この論文は、2018 年度在外研究の成果の一部である。

#### 注

- 1) 3 年次から 4 年次にかけてゼミを変更することが出来るのはいい制度だと考える。ゼミが大学生活の中核を担う科目であるとする、その研究内容、教員、ゼミとの相性から他のゼミに移り、心機一転、気持ちを新たに再スタートすることは健全だと思う。
- 2) 英語英文学科では過去数年間多くの教員が退職したにも関わらず十分な教員補充がなされず、教員一人当たりの学生数は現代社会システム学科と並び 40 名を超える過酷な状況にある。その関係でゼミにおいても 3 年次ゼミは定員を 16 名～20 名（教員による選択）、4 年次ゼミにおいては定員を 20 名に設定している。この関係でどのゼミもほぼ定員に近い状況にあるため、3～4 名の移籍で定員オーバーとなる状況にあった。
- 3) 在外研究で各自の研究室が割り当てられることもあるが、各大学・学部・カレッジの状況によって状況は異なる。私が在籍したオックスフォード大学教育学部ではオフィススペースが限られているため客員研究員への研究室の割り当てはなかったが、例えば、同大学・オリエンタル研究所や日産研究所（Nissan Institute）所属の研究員には個別研究室が割り当てられていた。
- 4) はてなダイアリーは 2019 年 1 月 28 日に提供を停止し、それまでの全てのブログははてなブログに移行された。この i-Seminar の記録や現在も進行中の「Team 若ゼミ」ブログは以下のサイトで公開している（<https://wakazemi.hatenadiary.jp/>）。

#### References

- Genís Pedra, M., & Martín de Lama, M. T. (2013). Can blended learning aid foreign language learning? *Language Learning in Higher Education*, 3(1), 127–149. <https://doi.org/10.1515/cercles-2013-0007>
- Wang, Y., & Qi, G. Y. (2018). Mastery-based language learning outside class: Learning support in flipped classrooms. *Language*

*Learning & Technology*, 22(2), 50–74. Retrieved  
from <https://doi.org/10125/44641>